



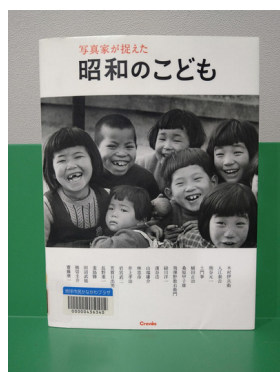
2026年は昭和元年から起算して100年を迎えます。

改めて「昭和」について考えてみませんか？

「『昭和100年』を契機に昭和を顧み、先人の躍動に学び、昭和の記憶を共有することは、平成以降の生まれの世代にとっても新たな発見のきっかけとなり、将来にわたる国際社会の安定と繁栄への貢献につなげていく機会になります。」
内閣官房「昭和100年」ポータルサイトより

おすすめ！

写真家が捉えた昭和のこども 土門拳ほか／撮影



戦中・敗戦・復興・経済成長と劇的な変化を遂げた「昭和」。決して豊かではない時代に、たくましく親を手伝い、競うようにみんなで遊び、なにもかもに一生懸命だった子どもたち。19人の写真家が会った昭和11年から51年のニッポンの子どもたちの元気な姿が、170点収録されています。

おすすめ！

戦時下の絵本と教育勅語 山中恒／著



絵本を開けばリアルに伝わる戦時下の教育。戦時下の絵本の根底に流れる、教育勅語の精神とはなにか。豊富な絵本資料から、教育勅語の精神をどのように子どもに教えこんでいたかを検証しています。改めて戦争と教育について考えてみませんか。

外国につながる人々、サポートをしている人や先生 みんな集まれ



情報フォーラム「外国人サポートコーナー」でときめく本に出合おう！

おすすめ！

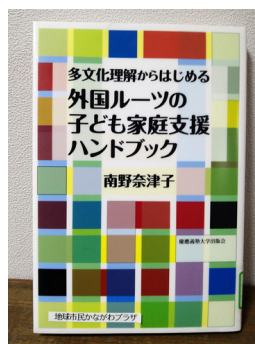
やってよかった！ 子どものための日本語アクティビティ 支援の考え方と実践例 池上摩希子、谷啓子ほか／著



子どもに日本語を教える支援者としての考え方と、16の実践事例を掲載。現場経験豊富な執筆陣が支援者の心構えを丁寧に紹介。また事例には学習レベルの目安とともに、子どもの反応・振り返りも掲載。活動のイメージがしやすく、読者独自の工夫も加えやすい。

おすすめ！

多文化理解からはじめる 外国ルーツの 子ども家庭支援ハンドブック 南野奈津子／著



「ヤングケアラー」「発達障害アセスメント」「社会的養護のもとで育つ子ども」など、より踏み込んだテーマも取り入れられている。文化的背景が異なる子ども、保護者に寄り添う支援の形を考えるヒントが多数。外国ルーツの子ども家庭支援に関わる全ての人へのハンドブック。